

波及するアカデミーの活動

タウンミーティング？ワークショップ？なんじゃそら？
受講生と一緒に取り組んだ地区振興会に起きた変化とは

おらほのお宝探し大作戦 真城タウンミーティング

C班は、アカデミーで学んだワークショップの手法を使い、地域活性化のために「地域のお宝探し」をしてみようと企画。地域の魅力を再発見すると同時に、若者の参加と地域リーダーの育成にもつながるのではと考えました。

しかし、一緒に取り組む地域が決まりません。「内容を話せば、それは良い」とみんな言うが、取り組むとなるとなかなか」と、班長の菊地貞好さんは振り返ります。

班員がそれぞれの地元に呼び掛けた結果、水沢区の真城地区振興会がこれに呼応。同地区で全3回の「おらほのお宝探し大作戦真城タウンミー

ティング」を開催することになりました。

ワークショップが生んだ世代間の交流

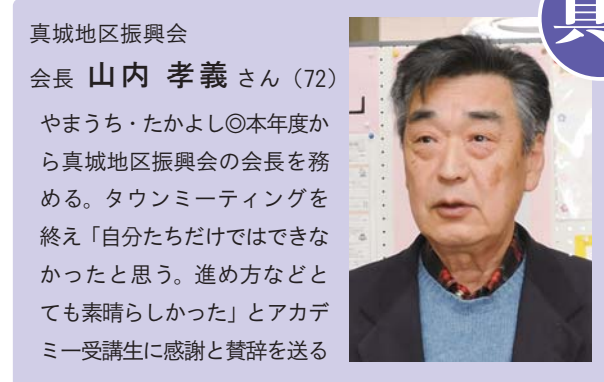
同振興会の山内孝義会長は、地区の現状を「若者の参加が少なく、自治組織は停滞。祭りや行事の継承も難しくなっている」と語ります。この課題を解決する糸口として、幅広い世代で地域課題と向き合える機会が欲しかった同振興会。そこに、今回のタウンミーティングはまさに「渡りに船」でした。

しかし、参加した住民約30人の中には「ワークショップ」という言葉を聞いたことがない人も。スムーズに意見が出るか心配されましたが、最初の意見が出ると、その道に通じたまちの有名人や史跡・神社仏閣など、次々と「お宝」が出されていきました。

20、70代が参加した今回は、無記名で意見だけを紙に書いて出し合うという方法で進められました。「普段口に出せないことも紙になら書ける。世代の異なるメンバーで意見を交わすときにとても有効だ」と、菊地さんと山内会長は口をそろえます。

この取り組みが地区で話題になり、2回目、3回目から参加する人も。また、回が進むにつれて意見交換が活発になり「季節ごとの祭りで世代間交流を」「お宝マップやホームページ、ブログを作ろう」など、地区振興会への新しい提案もありました。同振興会では、意見の実現に向けて検討を進めています。

真城



6グループに分かれて意見を出し合ったタウンミーティング

C班



協働のまちづくりアカデミーC班 班長 菊地 貞好 さん (62) きくち・ていこう◎水沢区在住。奥州金ヶ崎消防を退職後、地元振興会の地域活動員に。アカデミー修了を前に「60歳からでも地域おこしができると思った。地元で実践につなげていきたい」と力強く語る



アカデミー受講生がタウンミーティングの進め方を説明

新たな季節の新たな一歩

カリキュラムを終了した受講生たちはそれぞれの地域へ
そして協働のまちづくりアカデミーは2期目を迎える

アカデミーでの取り組みを市民に発表

市は、奥州市民憲章推進大会・協働のまちづくりフォーラムを2月17日、小山地区センターを会場に開催しました。アカデミーの受講生たちは、同フォーラムで各班の取り組みを発表。地区振興会役員など地域づくりの関係者約200人が耳を傾けました。



フォーラムで発表するアカデミーC班の菊地さん

アカデミーの今後は？

27年度からの協働のまちづくりアカデミーは、研修期間を1年間に変更。前期に講義などの座学、後期にアクシヨンプログラムを実施するカリキュラムで、本年度と同様に人材育成に取り組みます。受講生の募集は、4月に行う予定です。

1期生からのメッセージ

今回、取材を行ったアカデミー受講生たちに「まちづくりに興味があったり、アカデミーの受講を考えていたりす

る人たちに、何か伝えたいことはありますか？」と質問してみました。

「楽しいのでぜひ参加を。特に若い人たちに来て欲しい」と笑顔を見せるのは菊地幸直さん。「アカデミーで出会った仲間と、これからも交流していきたい」と語ります。

吉田裕悦さんは「同じ思いを持った仲間に出会える。これは大きな財産になるので積極的に参加してほしい」と力強く話し、菊地貞好さんは「地域をどうしようかと難しく考えないで、仲間と一緒にアクシオンを起こせば良い」と参加を後押しします。

そこに共通したのは「仲間」という言葉。自分が生まれ育ち、今を暮らすこのまちを良くしたい。そんな思いを持った「仲間」が、地域や世代を超えて集う協働のまちづくりアカデミーに、あなたも参加してみませんか――。



●1期生の旅立ちを祝うかのような澄んだ青空の下、晴れやかな笑顔の3人。
地域住民の集いや人材育成、地域おこしなど、それぞれが次の目標を胸に秘める